



Red Hat Fuse 7.4

リリースノート

Red Hat Fuse の新機能

Red Hat Fuse 7.4 リリースノート

Red Hat Fuse の新機能

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートは、Red Hat Fuse のリリース間で変更になった内容の概要を取り上げます。

目次

第1章 FUSE 7.4 の製品概要	3
1.1. FUSE のディストリビューション	3
1.2. 新機能	3
1.3. サポートされる設定	3
第2章 FUSE ONLINE	5
2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション	5
2.2. FUSE ONLINE 7.4 の新機能	5
2.3. FUSE ONLINE 7.4 での変更点	5
2.4. OPENSIFT ONLINE で実行されている既存インテグレーションのアップグレード	7
2.5. 重要事項	7
2.6. テクニカルサポートの利用	8
2.7. テクノロジープレビューの機能	8
第3章 FUSE ON OPENSIFT	10
3.1. OPENSIFT のサポート対象バージョン	10
3.2. サポートされるイメージ	10
3.3. FUSE 7.4 の新機能	10
3.4. テクノロジープレビューの機能	10
3.5. 重要事項	11
第4章 FUSE スタンドアロン	12
4.1. サポートされるコンテナ	12
4.2. FUSE 7.4 の新機能	12
4.3. テクノロジープレビュー機能	13
4.4. FUSE 7.4 の BOM ファイル	15
4.5. 重要事項	16
第5章 非推奨となった機能および削除された機能	17
5.1. 非推奨となった機能	17
5.2. FUSE 7.3 で削除された機能	17
5.3. FUSE 7.2 で削除された機能	18
5.4. FUSE 7.0 で削除された機能	18
5.5. FUSE 7.0 で置き換えられた機能	20
第6章 FUSE 7.4 でサポートされない機能	21
第7章 既知の問題	22
7.1. CVE セキュリティ脆弱性	22
7.2. FUSE ONLINE	23
7.3. FUSE ON OPENSIFT	25
7.4. FUSE ON SPRING BOOT	26
7.5. FUSE ON APACHE KARAF	27
7.6. APACHE CAMEL	27
第8章 FUSE 7.4 で修正された問題	29
8.1. FUSE 7.4 で改良された機能	29
8.2. FUSE 7.4 の機能リクエスト	29
8.3. FUSE 7.4 で解決されたバグ	30

第1章 FUSE 7.4 の製品概要

1.1. FUSE のディストリビューション

Fuse 7.4 は、以下の3つのディストリビューションで提供されます。

Fuse スタンドアロン

複数のオペレーティングシステム上でサポートされる従来の Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のコンテナタイプでサポートされます。

- Apache Karaf
- JBoss Enterprise Application Platform (EAP)
- Spring Boot

Fuse on OpenShift

OpenShift でインテグレーションアプリケーションを実行するための Fuse ディストリビューションです (Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムでサポートされます)。このディストリビューションでは、サポートされるコンテナタイプは docker 形式のコンテナイメージで提供されます。

- Java イメージ (Spring Boot 用)
- Apache Karaf イメージ
- JBoss EAP イメージ

Fuse Online

ブラウザベースの UI を使用して簡単なワークフローにアクセスできる、インテグレーション初心者向けの Fuse ディストリビューションです。このディストリビューションは以下のようなデプロイメントで使用できます。

- OpenShift Online Professional 層での事前インストール
- [Red Hat Managed Integration](#) クラスター上のデプロイメント
- オンプレミス OpenShift クラスターのインストール

1.2. 新機能

Fuse 7.4 には、主要なコンポーネントのアップグレードや新機能が多く含まれています。詳細は、各 Fuse ディストリビューションの**新機能**のセクションを参照してください。

- [Fuse Online の新機能](#)
- [Fuse スタンドアロンの新機能](#)

1.3. サポートされる設定

バージョン 7.4 でサポートされる設定、標準仕様、およびコンポーネントに関する詳細は、以下のカスタマーポータルの記事を参照してください。

- [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#)
- [Red Hat Fuse でサポートされる標準](#)
- [Red Hat Fuse - コンポーネントの詳細](#)

第2章 FUSE ONLINE

Fuse Online は、コードを作成せずに複数の異なるアプリケーションやサービスの統合を可能にする Web ブラウザーインターフェイスを提供します。また、複雑なユースケースで必要な場合にコードを追加できる機能も提供します。

Fuse Online では、OpenShift のインテグレーションは Apache Camel を使用する Spring Boot として実行されます。Camel-K はテクノロジープレビューのため、追加のランタイムとして使用できます。

2.1. FUSE ONLINE ディストリビューション

Fuse Online は Red Hat の Web ベースのインテグレーションプラットフォームです。[Syndesis](#) は Fuse Online のオープンソースプロジェクトです。Fuse Online は以下のような OpenShift 環境で実行されません。

ホスト環境	インストール
OpenShift Online OpenShift Dedicated	Red Hat が Red Hat インフラストラクチャーに Fuse Online をインストールし、提供します。
OpenShift Container Platform	お客様がインストールし、管理します。

2.2. FUSE ONLINE 7.4 の新機能

Fuse Online 7.4 は以下の新機能を提供します。

- 本リリースでは、以下のコネクターが新たに導入されました。
 - [Amazon Simple Notification Service \(SNS\)](#): SNS トピックにメッセージを送信します。
 - [Amazon Simple Queue Service \(SQS\)](#): SNS キューからメッセージを取得したり、SNS キューにメッセージを送信します。
- 前リリースではテクノロジープレビューであった以下のコネクターがサポートされるようになりました。
 - [FHIR](#): FHIR (Fast Healthcare Interoperability Resources) サーバーに接続します。
 - [OData](#): OData (Open Data Protocol) サービスに接続します。
- Fuse Online を OpenShift Container Platform (OCP) にてオンプレミスで実行している場合、以下の新機能を使用できます。
 - [新しいパブリックエンドポイント](#) は、インテグレーションに適用せずに新しい環境ラベルを作成します。
 - [定義された環境ラベルのリストを返すエンドポイント](#) が、環境ラベルでタグ付けされたインテグレーションの数を任意で返すようになりました。

2.3. FUSE ONLINE 7.4 での変更点

Fuse Online 7.4 では 7.3 の機能が以下のように変更されました。

- [Google スプレッドシートコネクタ](#) の機能が以下のように強化されました。
 - フローの途中にある Google スプレッドシートコネクションのスプレッドシート値を取得できるようになりました。
 - 最初のコネクションでスプレッドシート値を取得するときに、見出しの行番号を指定できるようになりました。これにより、コネクションはデータ取得元のスプレッドシートから列名を取得することができます。これにより、データの取得元であるスプレッドシートから列名を取得できるようになりました。行オブジェクトを返すようコネクションを設定した場合、データマッパーは前リリースで表示された文字ラベル (A、B、C など) ではなく意味のある列名を表示できます。
 - 最初のコネクションでスプレッドシート値を取得する場合、**Max results** フィールドの新しいデフォルト値は **0** になります。ポーリングで返される行数または列数を制限したくない場合は、デフォルトを受け入れます。**Max results** の設定は、結果メトリックのメジャーディメンションの設定に適用されます。メジャーディメンションにコネクションが返すデータを制限するには、整数を指定します。
たとえば、メジャーディメンションが列で、その **Max results** が **25** に設定された場合、ポーリングによって 25 行以下の値が返されます。
- Twitter コネクションの新しいアクションは次のとおりです。
 - [Retrieve](#) は、Twitter コネクションがアクセスできるユーザーアカウントに送信されたダイレクトメッセージ (プライベートメッセージ) を取得します。このアクションは、シンプルなインテグレーションで Twitter の最初のコネクションによって実行されます。
 - [Send](#) は、指定した Twitter ユーザー名にメッセージを送信します。以前の統合ステップからのメッセージコンテンツをマップすることも、アクションを設定するときにメッセージを指定することもできます。Send アクションは、フローの途中にある Twitter コネクションや、シンプルなインテグレーションの最後のコネクションである Twitter コネクションによって実行されます。
- [カスタム REST API クライアントコネクタ](#) のセキュリティーの強化
カスタム REST API クライアントコネクタが API キーを使用してセキュリティーを提供するようになりました。API クライアントコネクタを作成するときに、OpenAPI ドキュメントで API キーのセキュリティーが指定されている場合、Fuse Online は API キーの詳細を要求しません。カスタムコネクタからコネクションを作成する場合、Fuse Online は API キーの値を入力するよう要求します。
- [データベースコネクションの改良点](#)
データベースを更新するコネクションへの入力が、パラメーター値のコレクションになりました。新しいパラメーターである **Batch update** が、コネクションによるデータベースの更新方法を決定します。
 - **No** はデフォルト値で、パラメーター値の1つのセットのみを許可し、SQL ステートメントを1度のみ実行します。
 - **Yes** は SQL ステートメントを1度実行し、batch update 操作を使用してすべてのコレクションメンバーのデータベースを更新します。

詳細は以下を参照してください。


- [About parameter placeholders and values in SQL statements that update data](#)
- [インテグレーションの途中またはインテグレーションを完了するためにデータベースにアクセス](#)

2.4. OPENSIFT ONLINE で実行されている既存インテグレーションのアップグレード

Fuse 7.4 のリリース時、OpenShift Online の Fuse Online インフラストラクチャーは自動的にアップグレードされます。インフラストラクチャーのアップグレード中、OpenShift Online で実行されている既存のインテグレーションはすべてアップグレード中とアップグレード後の実行が継続されます。しかし、既存のインテグレーションは古いバージョンの Fuse ライブラリーおよび依存関係で実行を継続します。

Fuse Online のインフラストラクチャーが新しいリリースにアップグレードされたことを知らせる電子メールのメッセージを受け取った後、既存のインテグレーションを再パブリッシュ (再起動だけではなく) してアップグレードします。これはできるだけ早期に行ってください。

Fuse Online 環境でインテグレーションを再パブリッシュするには、左側のナビゲーションパネルで **Integrations** をクリックします。その後、インテグレーションごとに以下を行います。

1. インテグレーションエントリーの右側で  をクリックし、**Edit** を選択します。
2. Fuse Online で編集するインテグレーションが表示されたら、右上の **Publish** をクリックします。

パブリッシュを行うと、最新の Fuse Online 依存関係を使用して再ビルドが強制されます。



注記

インテグレーションの要素に、更新の必要がある新しい依存関係がある場合、Fuse Online ユーザーインターフェイスに警告が表示されます。

2.5. 重要事項

Fuse Online ディストリビューションの Fuse 7.4 リリースにおける重要事項

- 本リリースでは、Kafka へのコネクションは SSL をサポートしません。これは、今後のリリースで変更される予定です。
- Fuse Online アカウントは、同時に実行可能なインテグレーションの数が制限されています。詳細は、価格プランを参照してください。Fuse Online の評価版のアカウントをご使用の場合は、1度に1つのインテグレーションのみを実行できます。
- Fuse Online にアップロードする OpenAPI スキーマに出入カタイプが定義されていないことがあります。Fuse Online が出入カタイプを指定しない OpenAPI からカスタム API クライアントを作成した場合、API クライアントが処理できるフィールドにインテグレーションデータをマップするインテグレーションや、API クライアントが処理したフィールドから統合データをマップするインテグレーションを作成できません。インテグレーションにカスタム API を起点または終点とするマッピングが必要な場合、OpenAPI スキーマをアップロードするときに **Review/Edit** をクリックして API デザインツールの Apicurio を開き、出入カタイプの仕様を追加します。
- カスタム API クライアントコネクターまたは API プロバイダーインテグレーションに使用する OpenAPI ドキュメントは、循環スキーマ参照を持つことができません。たとえば、リクエストまたは応答ボディを指定する JSON スキーマは、そのスキーマ自体を全体的に参照することはできず、任意数の中間スキーマを介してそれ自体を部分的に参照することもできません。

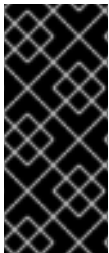
- 以前のリリースでは、**Split results** が **Yes** に設定された場合のみ、スプレッドシート値を取得した Google スプレッドシート接続で **Max results** の設定が順守されました。この依存関係は存在しないようになりました。

2.6. テクニカルサポートの利用

テクニカルサポートを利用するには、Fuse Online の左ナビゲーションパネルで **Support** をクリックします。**Support** ページを使用して、すべてのインテグレーションに関する診断情報や、選択した1つまたは複数のインテグレーションに関する診断情報をダウンロードします。このページには、サポートチケットを作成するためのリンクや、ダウンロードした診断情報を提供するためのリンクもあります。

2.7. テクノロジープレビューの機能

本リリースには、以下に示すテクノロジープレビュー機能が含まれています。



重要

テクノロジープレビューの機能は、Red Hat の本番環境のサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされず、機能的に完全ではないことがあるため、Red Hat は本番環境での使用は推奨しません。テクノロジープレビューの機能は、最新の技術をいち早く提供して、開発段階で機能のテストやフィードバックの収集を可能にするために提供されます。詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

- **Data Virtualization**
オンサイトの OpenShift Container Platform 上で実行される Fuse Online の開発環境では、データ仮想化はコンテナネイティブなサービスです。これは、リレーショナルデータベース、ファイル、Web サービス、SaaS リポジトリなどの、複数の異なるソースからデータを統合します。Fuse Online では、開発者はソースデータの論理ビューをカスタムで定義する仮想データベースイメージを作成できます。作成後、そのイメージを OpenShift にデプロイすることができます。アプリケーションは、標準の OData、REST、または JDBC インターフェイス上で仮想データベースに接続し、SQL をサポートしないものも含め、すべてのデータソースで SQL クエリーを実行することができます。

Data Virtualization を有効にするには、[OCP での Fuse のインストール](#) を参照してください。

- 以下に対するコネクタです。
 - Box
 - IMAP または POP3 メール
 - Jira
 - SMTP メール
- **Conditional Flows (条件付きフロー)**
Conditional Flows (条件付きフロー) ステップをシンプルなインテグレーションのフローまたは API プロバイダーのインテグレーションオペレーションフローに追加できるようになりました。**Conditional Flows** ステップを追加するときに、インテグレーションの1つ以上の条件を指定し、ランタイムにインテグレーションデータに対して評価を行います。次に、その条件が true と評価されたときに統合を実行するフローを作成します。実行中に評価結果が true の場合、統合はその条件に対して指定したフローを実行します。条件付きフローには、シンプルなインテグレーションフローまたは API プロバイダーオペレーションフローに追加可能な同じ接続とステップがあります。

- **データフィールドをマッピングするための条件式**
データマッパーでは、条件式を指定し、1つのデータマッピングに適用することができます。たとえば、条件式はソースフィールドの評価や、ソースフィールドが空の場合にターゲットフィールドに入力する方法を指定できます。指定できる式の限定セットは、Microsoft Excel の式に似ています。
- Camel-K は追加のランタイムとして使用できます。
- OAuth を使用する REST API クライアントでは、API クライアントコネクタの作成時に、そのコネクタから作成する接続のデフォルト OAuth2 の動作を変更することができます。OpenAPI 仕様への Fuse Online ベンダーエクステンションは以下をサポートします。
 - クライアントクレデンシャルをパラメーターとして提供。
 - HTTP レスポンスステータスコードを基にした新しいアクセストークンの取得。

第3章 FUSE ON OPENSHIFT

Fuse on OpenShift (Fuse Integration Services 7.0 以降の新名称) は、Fuse アプリケーションを OpenShift Container Platform にデプロイすることができます。

3.1. OPENSHIFT のサポート対象バージョン

Fuse on OpenShift が OpenShift Container Platform 4.1 でサポートされるようになりました。Fuse on OpenShift と使用する OpenShift Container Platform のサポート対象バージョンについては [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#) を参照してください。

3.2. サポートされるイメージ

Fuse on OpenShift は以下の Docker 形式のイメージを提供します。

- **fuse7/fuse-java-openshift** – Spring Boot
- **fuse7/fuse-karaf-openshift** – Apache Karaf
- **fuse7/fuse-eap-openshift** – Red Hat JBoss Enterprise Application Platform
- **fuse7/fuse-console** – Hawtio コンソール
- **fuse7/fuse-console-operator** – Hawtio コンソール Operator
- **fuse7/fuse-apicurito** – Apicurito REST API エディター
- **fuse7/fuse-apicurito-generator** – Apicurito REST アプリケーションジェネレーター
- **fuse7-tech-preview/fuse-apicurito-operator** – Apicurito Operator

3.3. FUSE 7.4 の新機能

Fuse on OpenShift バージョン 7.4 の主な新機能は次のとおりです。

- Fuse on OpenShift が OpenShift サーバー 4.1 でサポートされるようになりました。

3.4. テクノロジープレビューの機能

以下の Fuse on OpenShift の機能は **テクノロジープレビュー** であるため、Fuse 7.4 ではサポートされません。

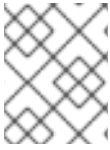
Data Virtualization

Red Hat Data Virtualization は、Teiid Data Virtualization プロジェクトをベースとする、コンテナネイティブなデータ仮想化サービスです。Red Hat Data Virtualization は、リレーショナルデータベース、ファイル、web サービス、SaaS リポジトリなどの複数の異種ソースからのデータを組み合わせます。詳細は、[Data Integration](#) を参照してください。

Hawtio Operator のインストール (OpenShift 3.11 向け)

[Kubernetes Operator](#) は、OpenShift (または Kubernetes) アプリケーションのインストールおよび管理を簡単にするスクリプトです。Hawtio コミュニティーから、OpenShift 上の Fuse 向け Hawtio Operator のテクノロジープレビューにアクセスできます。これにより、OpenShift 上の Hawtio

Console のインストール、アップグレード、アンインストールの手順が簡素化されます。Hawtio Operator の使用方法に関する詳細は、Hawtio コミュニティーのサイトの [README](#) を参照してください。

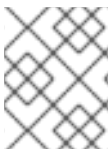


注記

インストールする Hawtio Operator や Hawtio Console はサポートされません。これは、テクノロジープレビューの機能で、本番環境でのテストには適していません。

Apicurito Operator のインストール

OpenShift Container Platform 4.1 の OperatorHub から Apicurito Operator をインストールできません。Apicurito Operator は、Fuse on OpenShift 用の Apicurito Operator のテクノロジープレビューへのアクセスを提供します。Apicurito Operator は、OpenShift 上での Apicurito のインストール、アップグレード、アンインストールの手順を簡素化します。[OpenShift 4.x サーバーでの Fuse イメージストリームおよびテンプレートのインストール](#) を参照してください。



注記

インストールする Apicurito Operator や Apicurito インスタンスはサポートされません。これは、テクノロジープレビューの機能で、本番環境でのテストには適していません。

3.5. 重要事項

Fuse on OpenShift ディストリビューションの Fuse 7.4 リリースにおける重要事項

Fuse 7.4 で推奨される Container Development Kit (CDK) 3.9 バージョン

OpenShift でアプリケーションを試す開発者は CDK 3.9 を使用することが推奨されます。で説明したように「[Fuse on OpenShift](#)」以前のバージョンの CDK は [CDK-397](#) の影響を受ける可能性があります。



注記

CDK は開発者の利便性のためにのみ提供されますが、サポートされる OpenShift ディストリビューションではありません。

Fabric8 Maven プラグインを使用したアプリケーションの再デプロイ

Fabric8 Maven プラグインを使用して Fuse on OpenShift アプリケーションを OpenShift Container Platform にデプロイする場合、コマンド `mvn fabric8:deploy` のみを使用してアプリケーションを再デプロイすることはできません。以下のコマンドシーケンスを使用してください。

```
mvn fabric8:undeploy
mvn fabric8:deploy
```

第4章 FUSE スタンドアロン

4.1. サポートされるコンテナー

Fuse スタンドアロン 7.4 は以下のランタイムコンテナーでサポートされます。

- Spring Boot 1 および Spring Boot 2 (スタンドアロン)
- Apache Karaf
- Red Hat JBoss Enterprise Application Platform (JBoss EAP)

4.2. FUSE 7.4 の新機能

Fuse スタンドアロンのバージョン 7.4 の主な新機能は次のとおりです。

Fuse on Spring Boot 2.x の新しい Maven アーティファクト

hawtio-springboot アーティファクトは、Spring Boot 2 との Hawtio 統合を提供するようになりました。**hawtio-springboot-1** アーティファクトは、Spring Boot 1 との Hawtio 統合を提供するようになりました。

Spring Boot 2.x の管理エンドポイントの新しいパス

管理エンドポイントは、次のパスで管理される新しい **/actuator** パスの下に存在します。

```
management.endpoints.web.base-path=/
```

Fuse on Spring Boot 2 の新しい Camel 2.22 および 2.23 コンポーネント

以下の追加の Camel コンポーネントが Fuse on Spring Boot 2 でサポートされるようになりました。

- **as2-component**
- **aws-iam-component**
- **fhir-component**
- **google-calendar-stream-component**
- **google-mail-stream-component**
- **google-sheets-component**
- **google-sheets-stream-component**
- **ipfs** コンポーネント
- **kubernetes-hpa-component**
- **kubernetes-job-component**
- **micrometer-component**
- **mybatis-bean-component**
- **nsq-component**

- **rxjava2**
- **service-component**
- **spring-cloud-consul**
- **spring-cloud-zookeeper**
- **testcontainers-spring**
- **testcontainers**
- **web3j-component**

4.3. テクノロジープレビュー機能

以下の Fuse スタンドアロンの機能は **テクノロジープレビュー** であるため、Fuse 7.4 ではサポートされません。

Saga EIP

Saga EIP (Enterprise Integration Pattern) はテクノロジープレビューの機能で、実稼働環境に適していない **インメモリ Saga サービスのみが対象**になります。LRA Saga サービスはサポートされません。詳細は Apache Camel Development Guide の [Saga EIP](#) を参照してください。

4.3.1. Camel LSP の Fuse Tooling サポート

Fuse Tooling は、[Camel LSP](#) (Language Server Protocol) エクステンションや、Visual Studio Code、Eclipse IDE、および Eclipse Che のプラグインを使用して、Camel アプリケーションの開発でクロスプラットフォームおよびクロス IDE を提供します。

Visual Studio Code では、WSDL を Camel Rest DSL サポートに提供するエクステンションを追加することもできます。

注記: これらの機能は、デフォルトで Red Hat CodeReady Studio の Fuse Tooling に含まれています。

Visual Studio Code の機能

[Language Support for Apache Camel](#) エクステンションは、Camel URI の以下の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL の場合:

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。
- ファイルを編集すると、エディターは Camel コードで Apache Camel 検証チェックを実行します。

XML DSL の場合のみ:

- VS Code の **Outline** パネルおよび **Go > Go to Symbol in File** ナビゲーションパネルで、Camel コンテキストおよびルートに移動できます。

- エディターは入力時に **direct**、**direct VM**、**VM**、および **SEDA** コンポーネントの参照された ID に対し、コード補完を提供します。
- 開いているすべての Camel ファイルで **direct** および **direct VM** コンポーネントの参照を見つけることができます。

[WSDL 2 Camel Rest DSL](#) エクステンション ([wsdl2rest](#) 実装) は、WSDL を Camel Rest DSL サポートに提供します。既存の WSDL ファイルを指定すると、このエクステンションを使用して REST スタイルのアクセスの Camel Rest DSL + CXF ソリューションを生成できます。WSDL ファイルは、ローカルファイルシステム上またはアクセス可能な Web URL から見つけることができます。

Language Support for Camel LSP および **WSDL to Camel Rest DSL** 機能にアクセスするには、以下のエクステンションを1つ以上追加します。

[Apache Camel Extension Pack](#) によって以下の VS Code エクステンションがインストールされます。

- [Language Support for Apache Camel](#)
- [OpenShift Connector](#)
- [Java Extension Pack](#)
- [Spring Boot Extension Pack](#)
- [Project Initializer by Red Hat](#)
- [WSDL 2 Camel Rest DSL](#)

エクステンションを個別にインストールすることもできます。

詳細は、以下の README ファイルを参照してください。

- [Apache Camel Extension Pack](#) の README ファイル。
- [Apache Camel Language Server Protocol for Visual Studio Code](#) の README ファイル。
- [WSDL to Camel Rest DSL](#) の README ファイル。

Eclipse IDE 機能

Language Support for Apache Camel Eclipse プラグインは Camel URI に以下の機能を提供します。

XML DSL および Java DSL 両方の汎用 Eclipse テキストエディター: * エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。* Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。

Eclipse XML または Java エディターを使用する場合は、自動補完機能のみが提供されます。

Language Support for Apache Camel 機能にアクセスするには、Eclipse Marketplace から Eclipse プラグインをインストールします。詳細は、[Apache Camel Language Server Protocol for Eclipse IDE](#) の [README file](#) を参照してください。

Eclipse Che の機能

Eclipse Che 6 の **Language Support for Apache Camel** プラグインは、Camel URI および XML DSL のみに機能を提供します。

- エディターは入力時に Camel コンポーネント、属性、および属性値のリストでコード補完を提供します。
- Camel コンポーネントにマウスオーバーすると、エディターにコンポーネントの簡単な説明が表示されます ([Apache Camel component reference](#) から)。
- ファイルを保存すると、エディターによって Camel コードで Apache Camel 検証チェックが実行されます。

Eclipse Che 向けのこのプラグインをアクティベートするには、ワークスペースの設定を編集する必要があります。アクティベート方法の詳細は、[Red Hat Developers のブログエントリー](#) の Use in OpenShift.io を参照してください。

注記: Che 7 (Beta 版) には Camel Java DSL のサポートが含まれます。詳細は <https://github.com/eclipse/che/issues/12584> を参照してください。

4.4. FUSE 7.4 の BOM ファイル

サポートされる Fuse 7.4 アーティファクトを使用するために Maven プロジェクトを設定するには、本セクションで説明する BOM バージョンを使用してください。

4.4.1. BOM ファイル

Fuse スタンドアロンアプリケーションをアップグレードして 7.4 依存関係を使用するには、Maven **pom.xml** を編集し、次の表にリストされている BOM と Maven プラグインのバージョンを変更します。

表4.1 Maven BOM および BOM を使用した 7.4 のプラグインバージョン

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.4 向けのバージョン
Spring Boot 1	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/fabric8-maven-plugin	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002
Spring Boot 2	org.jboss.redhat-fuse/fuse-springboot-bom	7.4.0.fuse-sb2-740019-redhat-00005
	org.jboss.redhat-fuse/fabric8-maven-plugin	7.4.0.fuse-sb2-740019-redhat-00005
	org.jboss.redhat-fuse/spring-boot-maven-plugin	7.4.0.fuse-sb2-740019-redhat-00005
Apache Karaf	org.jboss.redhat-fuse/fuse-karaf-bom	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002

コンテナタイプ	Maven BOM またはプラグインアーティファクト groupId/artifactId	Fuse 7.4 向けのバージョン
	org.jboss.redhat-fuse/karaf-maven-plugin	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002
JBoss EAP	org.jboss.redhat-fuse/fuse-eap-bom	7.4.0.fuse-740036-redhat-00002

BOM の使用に関する詳細は [Fuse Migration Guide](#) を参照してください。

4.5. 重要事項

Fuse スタンドアロンディストリビューションの Fuse 7.4 リリースにおける重要事項

JBoss EAP 7.2.1 (JBoss EAP 7.2 から) を使用するようにアップグレードされた Fuse on EAP

Fuse 7.4 リリースは、JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 7.2.1 コンテナで実行されるようになりました (Fuse の前リリースの JBoss EAP 7.2 からアップグレード)。詳細は、[JBoss EAP 7.2.0 リリースノート](#) を参照してください。

ENTESB-10537: Add support for camel-jbpm, Spring Boot 2.1, Camel 2.23 in Fuse 7.4 (Fuse 7.4 で camel-jbpm、Spring Boot 2.1、および Camel 2.23 へのサポートを追加)

- Spring Boot 2 BOM は、現在サポートされていない **camel-jbpm** コンポーネントを参照します。

第5章 非推奨となった機能および削除された機能

Fuse 7 の今後の変更に関するご質問やヘルプは、support@redhat.com にお問い合わせください。

5.1. 非推奨となった機能

以下の機能は Fuse 7.4 で非推奨となったため、今後のリリースで削除される可能性があります。

Camel アプリケーションで非推奨となった PHP、Python、および Ruby スクリプト言語

PHP、Python、および Ruby スクリプト言語は、Fuse 7.4 より Camel アプリケーションで非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。Camel コミュニティーでは、Camel 2.19 より PHP、Python、および Ruby が非推奨になりました ([CAMEL-10973](#) を参照)。これは、Apache Karaf、JBoss EAP、および Spring Boot のすべての Fuse コンテナタイプに適用されます。

非推奨となった HP-UX OS

HP-UX オペレーティングシステムは Fuse 7.2 より非推奨となり、このオペレーティングシステムのサポートは Fuse の今後のリリースで除外される可能性があります。JBoss EAP 7.2 コンテナではすでに HP-UX のサポートが除外されたため、JBoss EAP 7.2 で実行される Fuse on JBoss EAP の今後のバージョンは HP-UX ではサポートされません。

非推奨となった Camel MQTT コンポーネント

Camel MQTT コンポーネントは Fuse 7.0 で非推奨となり、Fuse の今後のリリースでは削除されます。このコンポーネントの代わりに、[Eclipse Paho](#) ライブラリーを使用して MQTT メッセージングプロトコルをサポートする Camel Paho コンポーネントを使用できます。

Linux 以外のオペレーティングシステムで非推奨となった Camel LevelDB コンポーネント

Camel LevelDB ([camel-leveldb](#)) コンポーネントは、Fuse 6.3 より Red Hat Enterprise Linux 以外のすべてのオペレーティングシステムで非推奨となりました。今後、Camel LevelDB コンポーネントは Red Hat Enterprise Linux でのみサポートされます。

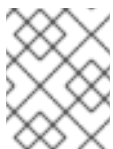
非推奨となった Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラス

Camel SJMS コンポーネントからの BatchMessage クラスは Fuse 7 で非推奨となり (Apache Camel ではバージョン 2.17 より非推奨)、Apache Camel および Fuse の今後のバージョンで削除される可能性があります。

JDBC プール `c3p0`、`aries`、および `hikaricp` は非推奨となり、Fuse の今後のリリースで削除されます。

以下の jdbc プールは非推奨となり、Fuse 7.4 以降はサポートされません。

- `pax-jdbc-pool-c3p0`
- `pax-jdbc-pool-aries`
- `pax-jdbc-pool-hikaricp`



注記

代わりに、`pax-jdbc-pool-transx`、`pax-jdbc-pool-narayana`、または `pax-jdbc-pool-dbc2` を使用してください。

5.2. FUSE 7.3 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 で削除された Camel YQL コンポーネント

Camel YQL コンポーネントは Fuse 7.3 で削除されました。

7.3 でブラックリスト指定された OpenJPA および OpenJPA3 Karaf 機能

openjpa 機能および **openjpa3** 機能は 7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。Java Persistence Architecture (JPA) 実装では、代わりにサポートされる **hibernate** 機能を使用してください。

7.3 でブラックリスト指定された camel-jetty Karaf 機能

camel-jetty 機能は Jetty 8 を使用するため、7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。この代わりに **camel-jetty9** 機能を使用してください。

7.3 でブラックリスト指定された pax-jms-oracleaq Karaf 機能

pax-jms-oracleaq 機能はサードパーティーの無償でない Oracle AQ ライブラリーを必要とするため、7.3 の Apache Karaf コンテナからブラックリスト指定 (削除) されました。

7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除された camel-elasticsearch コンポーネント

camel-elasticsearch コンポーネントは 7.3 の Fuse on EAP (Wildfly Camel) から削除されました。代わりに新しい **camel-elasticsearch-rest** コンポーネントを使用してください。

5.3. FUSE 7.2 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel XMLRPC コンポーネント

Camel XMLRPC コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。

7.2 で削除された Camel Netty コンポーネント

Camel Netty コンポーネントは Fuse 7.2 で削除されました。この代わりに Camel Netty4 コンポーネントを使用することが推奨されます。

5.4. FUSE 7.0 で削除された機能

以下の機能は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 でサポートが除外された Red Hat JBoss Operations Network (JON)

Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は JON をサポートしなくなり、JON ランタイムと統合するための JON プラグインの提供を停止しました。

7.0 で削除された組み込み ActiveMQ ブローカー

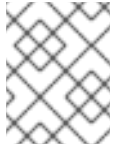
Fuse 7.0 より Fuse on Karaf は組み込み ActiveMQ ブローカーの提供を停止しました。そのため、サポートされるリモートブローカーへ直接接続するようにしてください。サポートされるブローカーの詳細は [Red Hat Fuse でサポートされる設定](#) の「サポートされるメッセージングプロバイダー」を参照してください。

7.0 で削除された Fuse インテグレーションパック

ルールやプロセスの実行に対するサポートは、Red Hat JBoss BPM Suite および Red Hat JBoss BRMS に含まれるコンポーネントによって提供されます。

7.0 で削除された子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンド

Fuse 7.0 より、子コンテナ管理用の Karaf コンソールコマンドはサポートされて **いません**。対象となる **instance:** (Karaf 4.x 構文) で始まるコンソールコマンドと、**admin:** (Karaf 2.x 構文) で始まるコンソールコマンドはサポートされません。



注記

Fuse 7.0 GA リリースでは、**instance:** コマンドはブラックリストに登録されていません。これは既知の問題です。

7.0 で削除された SwitchYard

SwitchYard は Fuse 7.0 で削除され、代わりに Apache Camel を直接使用する必要があります。詳細は、ナレッジベースの [SwitchYard Support Plan After Releasing Fuse 7](#) を参照してください。

7.0 で除外された Fabric8 1.x のサポート

Fuse 7.0 で Fabric8 v1 は Fabric8 v2 のコンポーネントが含まれる Fuse on OpenShift (旧名称 Fuse Integration Services) に置き換えられました。Fuse on OpenShift は、OpenShift 内でインテグレーションマイクロサービスの開発、デプロイメント、および管理を可能にするツールのセットと Docker 形式のイメージを提供します。

Fuse on OpenShift のアーキテクチャーは異なりますが、Fabric 8 v1 が提供する同じプロビジョニング、自動化、中央設定、管理要件に対応します。詳細は [Fuse on OpenShift ガイド](#) を参照してください。

7.0 で削除された Google App Engine の Camel コンポーネント

Google App Engine の Camel コンポーネント (**camel-gae**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Camel jBPM コンポーネント

Camel jBPM コンポーネント (**camel-jbpm**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパー

Fuse をサービスとしてインストールするための Tanuki ベースのラッパースクリプト (**wrapper:install** Karaf コンソールコマンドを使用して生成) は Fuse 7.0 で削除されました。Apache Karaf コンテナをサービスとしてインストールする場合、この代わりに **bin/contrib** ディレクトリから新しい **karaf-service-*.sh** スクリプトを使用することが推奨されます。

7.0 で削除された Smooks

SwitchYard の Smooks コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された BPEL

[Riftsaw](#) プロジェクトをベースとする BPEL は Fuse 7.0 で削除されました。BPEL を現在使用している場合は、Red Hat JBoss BPM Suite への移行を考慮することが推奨されます。

7.0 で削除された Design Time Governance

Design Time Governance コンポーネントは 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された Runtime Governance

Runtime Governance (RTGov) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された S-RAMP

S-RAMP (SOA Repository Artifact Model and Protocol) コンポーネントは Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 で削除された bin/patch スクリプト

bin/patch スクリプト (Windows O/S では **bin\patch.bat**) は Fuse 7.0 で削除されました。

7.0 でサポートされない Spring-DM (Spring Dynamic Modules)

Spring XML を Apache Karaf の OSGi サービスレイヤーと統合する Spring-DM は Fuse 7.0 ではサポートされないため、代わりに Blueprint フレームワークを使用する必要があります。Blueprint XML を使用しても、Spring フレームワークから Java ライブラリーを使用することはできます。最新バージョンの Spring は Blueprint と互換性があります。

7.0 でサポートされない Apache OpenJPA

JPA (Java Persistence API) の [Apache OpenJPA](#) 実装は Fuse 7.0 ではサポートされません。代わりに [Hibernate](#) 実装を使用することが推奨されます。

5.5. FUSE 7.0 で置き換えられた機能

以下の機能は Fuse 7.0 で置き換えられました。

7.0 で置き換えられた Geronimo トランザクションマネージャー

Fuse 7.0 では Karaf コンテナの Geronimo トランザクションマネージャーが [Narayana](#) に置き換えられました。

7.0 で置き換えられた Jetty コンテナ

Fuse 7.0 では Jetty コンテナが [Undertow](#) によって置き換えられました。この変更は最初に Jetty コンテナの内部使用のみ (Karaf コンテナ内など) に適用されます。他の Jetty コンポーネントは今後のリリースで削除される可能性があります。

第6章 FUSE 7.4 でサポートされない機能

以下の機能は、Red Hat Fuse 7.4 ではサポートされません。

サポートされない Apache Karaf EclipseLink 機能

Apache Karaf EclipseLink 機能は Fuse ではサポートされません。この機能は JPA 2.2 に依存しますが、Fuse 7.2 の Karaf コンテナは JPA 2.1 と関連しているからです。

サポートされない Apache Aries Blueprint Web モジュール

Apache Aries [Blueprint Web](#) モジュールは Fuse ではサポートされません。Apache Camel のコミュニティ版で Blueprint Web を使用している例がありますが (個別ダウンロードとして提供)、Fuse でのサポートを意味するものではありません。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない PHP スクリプト言語

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。PHP スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

Apache Karaf の Apache Camel でサポートされない Python スクリプト言語

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。Python スクリプト言語は、JBoss EAP コンテナおよび Spring Boot コンテナ上の Camel アプリケーションでは非推奨になりました。

第7章 既知の問題

以下の項ではバージョン 7.4 の既知の問題について説明します。

7.1. CVE セキュリティー脆弱性

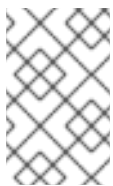
Fuse はミドルウェア統合プラットフォームであるため、多くのサードパーティーコンポーネントと統合される可能性があります。そのため、サードパーティーの依存関係の一部にセキュリティの脆弱性がある可能性を常に排除することは困難です。ここでは、Fuse 7.4 のサードパーティーの依存関係に影響する既知のセキュリティ脆弱性について説明します。

ENTESB-12489 CVE-2019-9827 - Fuse Console standalone on Amazon Web Services

セキュリティの懸念があるため、スタンドアロンの Fuse アプリケーションを Amazon Web Services (AWS) にデプロイしないでください。この制限は、サポートされるすべてのスタンドアロン環境 (Spring Boot 1.x および 2.x、Karaf、および Red Hat JBoss Enterprise Application Platform) に適用されます。Fuse Console を AWS にスタンドアロンでデプロイする場合は、Fuse 7.7 以降にアップグレードし、**hawtio.disableProxy** システムプロパティを **true** に設定して、Fuse Console のプロキシサーブレットを無効にすることを強く推奨します。

CVE-2017-12629 Solr/Lucene -security bypass to access sensitive data - CVE-2017-12629

Apache Solr は、Apache Lucene 検索エンジンを使用する一般的なオープンソースの検索プラットフォームです。アプリケーションが Apache Solr と Apache Lucene の組み合わせ (Camel Solr コンポーネントを使用している場合など) を使用する場合、このセキュリティ脆弱性の影響を受ける可能性があります。この脆弱性の詳細と軽減策について、リンク先のセキュリティーアドバイザリーを確認してください。



注記

Fuse ランタイムは Apache Solr や Apache Lucene を直接使用 **しません**。統合アプリケーションで Apache Solr と Apache Lucene を一緒に使用する場合のみセキュリティ上のリスクが発生します (Camel Solr コンポーネントを使用する場合など)。

複数の CVE jackson-databind セキュリティー脆弱性に関連する複数の CVE

FasterXML **jackson-databind** ライブラリーを使用し、JSON コンテンツをデシリアライズして Java オブジェクトをインスタンス化するアプリケーションは、潜在的に **リモートコード実行** 攻撃に脆弱です。しかし、脆弱性は自動的に発生せず、適切な軽減策を講じれば回避することができます。

最低でも以下の前提条件をすべて満たさなければ攻撃を実行することはできません。

1. **jackson-databind** の JSON コンテンツのデシリアライズに対し、ポリモーフィックな型の処理を有効にする必要があります。Jackson JSON でポリモーフィックな型の処理を有効にする方法は 2 つあります。
 - a. **@JsonTypeInfo** および **@JsonSubTypes** アノテーションの組み合わせを使用します。
 - b. **ObjectMapper.enableDefaultTyping()** メソッドを呼び出します。この方法はポリモーフィックな型をグローバルで有効にするため、危険です。
2. 現在のバージョンの **jackson-databind** によってブラックリストに指定されていない **ガジェットクラス** が 1 つ以上 Java クラスパスにあります。ガジェットクラスは、機密性の高い (潜在的に悪用可能な) 操作を、constructor または setter メソッド (デシリアライズ中に呼び出しできるメソッド) の実行による副次的な影響として定義します。Jackson JSON ライブラリーによって維持されるガジェットブラックリストは、リモートコード実行の脆弱性から守るための最後の手段になります。

jackson-databind の脆弱性に関して多くの CVE が存在するのは、多数のガジェットクラスが存在するためです。ガジェットクラスの種別別に異なる CVE が存在します。



重要

Fuse はできるだけ早く最新バージョンの **jackson-databind** を使用するようアップグレードされます。ただし、Fuse 7.4.0 は現在、**jackson-databind** の最新バージョンと一致していません。

アプリケーションで **jackson-databind** を使用する必要がある場合、Jackson JSON でポリモーフィックな型の処理を行わないようにし、**ObjectMapper.enableDefaultTyping()** メソッドを絶対に呼び出さないことが、リスクを軽減する最も重要な対策になります。

7.2. FUSE ONLINE

Fuse Online ディストリビューションの既知の問題は次のとおりです。

6052 [1.7.8] No activities after small load (~80000 messages in 20hours)

パフォーマンステストの結果、アクティビティ追跡ロジックによって、アクティビティを追跡するために Fuse Online によって使用されるデータベースで非常に多くの無効なタプルが発生する可能性があることが判明しました。この問題により、特に UI からインテグレーションリストにアクセスする場合や、インテグレーションのアクティビティを更新する場合など、データベースからの読み取りが必要な操作が一般的に遅くなります。この問題を回避するには、SQL ステートメント **VACUUM FULL ANALYSE jsondb** を発行して、データベースの定期的なメンテナンスを実行します。

以下にしたがって、定期的にメンテナンスを行います。

```
# check to see if there are dead tuples (not vacuumed)
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo SELECT schemaname, relname, n_live_tup, n_dead_tup, last_autovacuum FROM pg_stat_all_tables WHERE relname = '\jsondb'\|psql -U syndesis"
```

schemaname	relname	n_live_tup	n_dead_tup	last_autovacuum
public	jsondb	26893	491210	2019-07-17 09:26:51.264029+00

```
(1 row)
```

```
# since there are 491210 dead tuples, perform the following

# scale down the server
$ oc scale --replicas=0 dc syndesis-server

# terminate all running connections
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo SELECT pg_terminate_backend\(\a.pid\) FROM pg_locks l join pg_stat_activity a ON a.pid = l.pid WHERE l.mode = '\ExclusiveLock\' AND a.username = '\syndesis'\|psql -U syndesis"
```

```
FATAL: terminating connection due to administrator command
server closed the connection unexpectedly
This probably means the server terminated abnormally
before or while processing the request.
connection to server was lost
```

```
command terminated with exit code 2
```

```
# the preceding FATAL error is expected, because the statement also closes the connection psql
is using
```

```
# execute `VACUUM FULL ANALYSE`
```

```
$ oc exec -c postgresql $(oc get pod -l 'syndesis.io/component=syndesis-db' --no-headers=true -
o=custom-columns=x:.metadata.name) -- bash -c "echo VACUUM FULL ANALYSE |psql -
U syndesis"
VACUUM
```

```
# scale up server
```

```
$ oc scale --replicas=1 dc syndesis-server
```

5458 Operator tries to update outdated Syndesis resource

Operator を使用して Fuse Online をインストールすると、以下のエラーが複数回発生しますが、インストール自体に大きな影響はないため、無視しても問題はありません。

```
{"level":"error","ts":1558617960.2453232,"logger":"controller","msg":"Error
reconciling","action":"*action.startupAction","phase":"Starting","error":"Operation cannot be fulfilled
on syndesises.syndesis.io \"app\": the object has been modified; please apply your changes to the
latest version and try
again","stacktrace":"github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/github.com/go-
logr/zapr.
(*zapLogger).Error\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/github.com/go-
logr/zapr/zapr.go:128\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/pkg/controller/syndesis.
(*ReconcileSyndesis).Reconcile\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/pkg/contrc
er/syndesis/syndesis_controller.go:120\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/sigs.
8s.io/controller-runtime/pkg/internal/controller.
(*Controller).processNextWorkItem\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/
sigs.k8s.io/controller-
runtime/pkg/internal/controller/controller.go:215\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/ven
dor/sigs.k8s.io/controller-runtime/pkg/internal/controller.
(*Controller).Start.func1\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/install/operator/vendor/sigs.k8s.io/
controller-
runtime/pkg/internal/controller/controller.go:158\ngithub.com/syndesisio/syndesis/install/operator/ven
dor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.JitterUntil.func1\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/instal
operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:133\ngithub.com/syndesisio/syndesis/instal
operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.JitterUntil\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndesis/
install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:134\ngithub.com/syndesisio/syndesis/
install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait.Until\n\t/go/src/github.com/syndesisio/syndes
s/install/operator/vendor/k8s.io/apimachinery/pkg/util/wait/wait.go:88"}
```

ENTESB-10577 Apicurito does not support YAML Open API spec files

Fuse 7.4 on OpenShift では、Apicurito はデフォルトで OpenAPI 仕様ファイルを YAML 形式で生成しますが、生成された YAML ファイルを再インポートできません。現在、JSON 形式のみを Apicurito にインポートできます。

667 'null' when using "ItemAt" transformation from List<> → Number

ItemAt 変換を使用して List から Double 型フィールドにマッピングすると、データマッパーによって例外がスローされます。

1558 "Save as draft" and "Publish" buttons

Save as draft ボタンと Publish ボタンのいずれかをクリックし、手順が開始されても、両方のボタンがアクティブなままになります。

698 DB Connector: SQL parser doesn't recognize parameters for LIKE

LIKE キーワードを含む SQL ステートメント (例: **DELETE FROM TODO WHERE task LIKE '#param'**) では、**LIKE** キーワードを **:#param** などのデータマッパーパラメーターと共に使用することはできません。

7.3. FUSE ON OPENSIFT

このセクションでは、OpenShift 上の Fuse アプリケーションのデプロイメントに影響する問題を取り上げます。特定のコンテナに影響する問題の詳細は、Spring Boot、Fuse on Apache Karaf、および Fuse on JBoss EAP のセクションも参照にしてください。Fuse on OpenShift ディストリビューションの既知の問題を以下に示します。

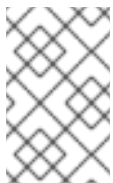
ENTESB-10817 Openshift 4.1 + FMP: Unexpected response (403 Forbidden), to the authorization request.Missing header:[Location]!

OpenShift Container Platform (OCP) 4.1 では、**fabric8-maven-plugin** が **oc login** コマンドによって作成された既存のセッションに依存するのではなく、Fabric8 の Kubernetes クライアント実装を使用して OpenShift に対して自身を認証すると、次のエラーが発生します。

```
[ERROR] Failed to execute goal org.jboss.redhat-fuse:fabric8-maven-plugin:7.4.0.fuse-740024:build (default) on project fabric8-maven-sample-zero-config: Failed to execute the build: Unable to build the image using the OpenShift build service: Unexpected response (403 Forbidden), to the authorization request. Missing header:[Location]!
```

特に、**Tooling User Guide** の **Fuse on OpenShift** クイックスタート例をビルドおよびデプロイする手順は、**Fabric8-maven-plugin** が OpenShift に対して直接認証することを前提としています。[Deploying the Fuse Integration project to OpenShift](#) の手順にしたがって、プロジェクトを OCP 4.1 クラスタにデプロイする場合は、ステップ 5 を以下のように変更します。

1. アプリケーションをデプロイする OCP 4.1 クラスタの OpenShift コンソールにログインします。
2. OpenShift コンソールの右上隅にあるユーザー名をクリックし、メニューオプション **Copy Login Command** を選択します。これにより、**oc login https://192.168.42.218:8443 --token=xxxxxxx** という形式の文字列がクリップボードにコピーされます。ここで、**xxxxxxx** はセッショントークンを表す base64 でエンコードされた文字列です。
3. 仮想マシン引数 ペインから **-Dkubernetes.auth.basic.password=admin** 設定を削除し、**-Dkubernetes.auth.token=xxxxxxx** 設定に置き換えます。ここで、**xxxxxxx** はクリップボード文字列から抽出されたセッショントークンです。

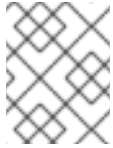


注記

Fuse on OpenShift ガイドの例とチュートリアルは通常、**oc login** コマンドによって作成されたセッションに依存します。そのため、これらの例の1つの手順にしたがえば、このエラーは発生しません。

ENTESB-10694 Problem using Fuse Console on OCP4.1 beta

OpenShift 4 で Fuse Console で Fuse サービスを管理する場合、OperatorHub のコミュニティーオペレーターを使用してコミュニティーバージョン (Hawtio) をインストールする必要があります。OpenShift Web コンソールのメインカタログから OperatorHub にアクセスします。



注記

Kubernetes Operator は、OpenShift (または Kubernetes) アプリケーションのインストールおよび管理を簡単にするスクリプトです。

Fuse Console プロキシと Jolokia エージェントとの間の接続をセキュアにするには、コミュニティバージョンの Fuse Console をインストールし、それをデプロイする前にクライアント証明書を生成、署名、およびデプロイする必要があります。OpenShift 4 で Fuse Console をセキュアにする方法については、[README ファイル](#) を参照してください。

ENTESB-10577 Apicurito does not support YAML Open API spec files

Fuse 7.4 on OpenShift では、Apicurito はデフォルトで OpenAPI 仕様ファイルを YAML 形式で生成しますが、生成された YAML ファイルを再インポートできません。現在、JSON 形式のみを Apicurito にインポートできます。

7.4. FUSE ON SPRING BOOT

Fuse on Spring Boot の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-11164 Missing qpid-jms-client in SB2 BOM

Fuse 7.4.0 リリースでは、Spring Boot 2 部品表 (BOM) ファイルが、Qpid JMS クライアントの **org.apache.qpid:qpid-jms-client** Maven アーティファクトの誤ったバージョンを参照しています。Maven プロジェクトで正しい (Red Hat がサポートする) バージョンの **org.apache.qpid:qpid-jms-client** を使用するには、プロジェクトの POM ファイルに次の依存関係を追加します。

```
<dependency>
  <groupId>org.apache.camel</groupId>
  <artifactId>camel-amqp</artifactId>
  <exclusions>
    <exclusion>
      <groupId>org.apache.qpid</groupId>
      <artifactId>qpid-jms-client</artifactId>
    </exclusion>
    <exclusion>
      <groupId>org.apache.qpid</groupId>
      <artifactId>proton-j</artifactId>
    </exclusion>
  </exclusions>
</dependency>
<dependency>
  <groupId>org.apache.qpid</groupId>
  <artifactId>qpid-jms-client</artifactId>
  <version>0.40.0.redhat-00001</version>
</dependency>
<dependency>
  <groupId>org.apache.qpid</groupId>
  <artifactId>proton-j</artifactId>
  <version>0.31.0.redhat-00001</version>
</dependency>
```

ENTESB-11163 Incorrect version of AMQ client in SB2 BOM in Fuse 7.4.0.CR4

Fuse 7.4.0 リリースでは、Spring Boot 2 BOM ファイルが **org.apache.activemq:activemq-client** Maven アーティファクトの誤ったバージョンを参照します。

サポートされない Camel jBPM コンポーネントを参照する Spring Boot 2 の BOM

Fuse 7.4.0 リリースでは、Spring Boot 2 の BOM (Bill of Material) が現在 Fuse でサポートされていない Camel jBPM コンポーネントを参照します。

7.5. FUSE ON APACHE KARAF

Fuse on Apache Karaf の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-8140 Start level of hot deploy bundles is 80 by default

Fuse 7.0 GA リリースの Apache Karaf コンテナでは、ホットデプロイバンドルの開始レベルがデフォルトで 80 になっています。これにより、同じ開始レベルを持つシステムバンドルや機能が多く存在するため、ホットデプロイバンドルに問題が発生することがあります。この問題を回避し、ホットデプロイバンドルが確実に開始するようにするには、**etc/org.apache.felix.fileinstall-deploy.cfg** ファイルを編集し、**felix.fileinstall.start.level** 設定を以下のように変更します。

```
felix.fileinstall.start.level = 90
```

ENTESB-7664 framework-security 機能をインストールすると、karaf を終了する

--no-auto-refresh オプションを使用して **framework-security** OSGi 機能をインストールしないと、Apache Karaf コンテナがシャットダウンします。以下に例を示します。

```
feature:install -v --no-auto-refresh framework-security
```

7.6. APACHE CAMEL

Apache Camel の既知の問題は次のとおりです。

ENTESB-11060 [camel-linkedin] V1 API is no longer supported

Fuse 7.4.0 では、Camel LinkedIn コンポーネントが LinkedIn サーバーと通信できなくなりました。これは、LinkedIn でサポートされなくなった LinkedIn Version 1.0 API を使用して実装されているためです。Fuse の今後のリリースで Camel LinkedIn コンポーネントが更新され、Version 2 API を使用するようになる予定です。

ENTESB-7469 Camel Docker コンポーネントは EAP で Unix ソケット接続を使用できない

Fuse 7.0 より、**camel-docker** コンポーネントは UNIX ソケットではなく REST API のみを介して Docker に接続できます。

ENTESB-5231 PHP スクリプト言語は機能しない

PHP の OSGi バンドルがないため、PHP スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-5232 Python 言語は機能しない

Python の OSGi バンドルがないため、Python スクリプト言語は Apache Karaf コンテナ上の Camel アプリケーションでサポートされません。

ENTESB-2443 Google Mail API - メッセージの送信と下書きが同期されていない

メッセージまたは下書きを送信すると、応答には ID を持つ Message オブジェクトが含まれます。API への別の呼び出しを介してこのメッセージを即座に取得できない可能性があります。このような場合、待機して呼び出しを再試行する必要があります。

ENTESB-2332 Google Drive API JSON response for changes returns bad count of items for the first page

変更に対する Google Drive API JSON 応答によって返される最初のページのアイテム数は適切であ

りません。リスト操作に `maxResults` を設定すると、最初のページにすべての結果が返されない場合があります。この場合、複数のページを確認して完全リストを取得する必要があります (新しいリクエストに `pageToken` を設定して行います)。

第8章 FUSE 7.4 で修正された問題

以下のセクションには、Fuse 7.4 で修正された問題が記載されています。

- [「Fuse 7.4 で改良された機能」](#)
- [「Fuse 7.4 の機能リクエスト」](#)
- [「Fuse 7.4 で解決されたバグ」](#)

8.1. FUSE 7.4 で改良された機能

以下の表に Fuse 7.4 で改良された機能を示します。

表8.1 Fuse 7.4 で改良された機能

問題	説明
ENTESB-10722	Fix camel-jira client close and add logging (camel-jira の client close を修正し、ロギングを追加)
ENTESB-10349	Make credential:store usable with bin/client (credential:store コマンドを bin/client スクリプトで使用できるようにする)
ENTESB-10620	jasypt:* and credential-store:* commands should allow to specify master password using env/sys variables (jasypt:* and credential-store:* コマンドは env/sys 変数を使用したマスターパスワードの指定を許可すべき)
ENTESB-10491	Adding property to exclude any ssl protocol version for JMX (プロパティを追加して JMX の ssl プロトコルバージョンを除外)
ENTESB-10324	Switch to RHOAR Spring Boot BOM (RHOAR Spring Boot BOM への切り替え)
ENTESB-10839	Enhance documentation for twitter search of multiple words (複数の単語の Twitter 検索に関するドキュメントを改良)
ENTESB-10398	Review the list of JDBC pools comes with karaf to adjust support cost (サポートコストを調整するために karaf に付属される JDBC プールのリストを確認)
ENTESB-10640	JdbcAggregationRepository does not work with postgresql's OID data type for exchange column (JdbcAggregationRepository が列の交換で postgresql の OID データタイプと動作しない)

8.2. FUSE 7.4 の機能リクエスト

以下の表に Fuse 7.4 の機能リクエストを示します。

表8.2 Fuse 7.4 の機能リクエスト

問題	説明
ENTESB-10502	Create a Data Virtualization Module (データ仮想化モジュールの作成)
ENTESB-10506	SQL Preview of a Virtualization (仮想化の SQL プレビュー)
ENTESB-10503	Show Views in a Virtualization (仮想化でのビュー表示)
ENTESB-10499	Provide GoogleSheets support (Google スプレッドシートサポートの提供)
ENTESB-10501	OpenApi 3.0 Support for OData (OData の OpenApi 3.0 のサポート)
ENTESB-10497	Provide Salesforce source support (Salesforce ソースサポートの提供)
ENTESB-6202	Support for AS2 (AS2 のサポート)
ENTESB-10607	Include Narayana Spring Boot 2 support (Narayana Spring Boot 2 サポートを含める)
ENTESB-10674	Develop new jira component based on rest api (rest api を基にした新しい jira コンポーネントの開発)
ENTESB-10505	Expert (ad-hoc) developer based view (エキスパート (アドホック) 開発者ベースのビュー)
ENTESB-10443	Hawtio add filters on specific exchanges (Hawtio は特定の変換でフィルターを追加)
ENTESB-10603	Add Camel 2.23 / Spring Boot 2 support to Hawtio (Camel 2.23 / Spring Boot 2 サポートを Hawtio に追加)
ENTESB-10495	Support Keycloak based OpenID authentication for OData Through 3scale (3scale を介した OData の Keycloak ベース OpenID 認証のサポート)
ENTESB-11038	External monitoring on OCP4 (OCP4 の外部監視)
ENTESB-10483	Create a POC Camel adapter for Kafka Connect (Kafka コネクションの POC Camel アダプターの作成)
ENTESB-10604	Add Spring Boot 2 support to CXF (CXF に Spring Boot 2 のサポートを追加)

8.3. FUSE 7.4 で解決されたバグ

以下の表に Fuse 7.4 で解決されたバグを示します。

表8.3 Fuse 7.4 で解決されたバグ

問題	説明
ENTESB-10288	[Hawtio Spring Boot] There are hidden nodes when Camel tree is expanded (Camel ツリーをデプロイメントすると表示されていないノードがある)
ENTESB-10420	Fuse Online logo is small (Fuse Online のロゴが小さい)
ENTESB-10411	Merge productization changes to atlasmap (製品化の変更を atlasmap にマージ)
ENTESB-10385	Openshift 4 + FMP: DefaultKubernetesClient cannot be cast to OpenShiftClient (Openshift 4 + FMP: DefaultKubernetesClient を OpenShiftClient にキャストできない)
ENTESB-10795	Import invalid table fails but creates a view (無効なテーブルのインポートに失敗するがビューを作成する)
ENTESB-10794	Route for OData is not created automatically and it doesn't appear anywhere in UI (OData のルートは自動的に作成されず、UI のどこにも表示されない)
ENTESB-10792	SQL Client doesn't work (SQL クライアントが動作しない)
ENTESB-10726	Trying to validate invalid DDL breaks the editor (無効な DDL を検証しようとするときエディターが破損する)
ENTESB-10727	Saving invalid DDL is possible and makes it disappear (無効な DDL を保存できず消去される)
ENTESB-10725	Cursor jumps while editing DDL (DDL の編集中にカーソルがジャンプする)
ENTESB-10723	Only lowercase letters and numbers allowed for Data Virtualization connection (データ仮想化接続に小文字と数字のみを使用できる)
ENTESB-10679	Integration with RH-SSO and Hawtio (on Karaf) doesn't work (RH-SSO および Hawtio (Karaf 上) とのインテグレーションが機能しない)
ENTESB-9619	[Hawtio] Unpredictable behaviour of Chart tab in Camel tree (Camel ツリーの Chart タブによる予期せぬ動作)
ENTESB-10434	camel-cxf - failure processor for custom exception handling cannot get the original message (camel-cxf - カスタム例外処理の failure プロセッサが元のメッセージを取得できない)
ENTESB-10390	Regression - Namespaces defined on the SOAP envelope get lost in PAYLOAD mode (不具合 - SOAP エンベロープに定義された名前空間が PAYLOAD モードで損失される)
ENTESB-10686	JcrlIntegrationTest fails with 2.21.0.fuse-731 (JcrlIntegrationTest が 2.21.0.fuse-731 で失敗する)

問題	説明
ENTESB-10742	Yammer throws Jackson serialisation exception (Yammer が Jackson シリアル化例外を出力する)
ENTESB-10835	SB2 - spring-boot-camel-rest-sql: servletRegistrationBean has already been defined (SB2 - spring-boot-camel-rest-sql: servletRegistrationBean がすでに定義済みである)
ENTESB-10838	"SB2 - spring-boot-camel-xa: relation ""audit_log"" does not exist" (SB2 - spring-boot-camel-xa: 関連の ""audit_log"" が存在しない)
ENTESB-10744	application-templates are using old tag for Fuse 7.4 (application-templates が Fuse 7.4 の古いタグを使用する)
ENTESB-10583	camel-amqp is using a very old qpid client (camel-amqp が非常に古い qpid クライアントを使用する)
ENTESB-10857	latest java image doesn't work (最新の java イメージが機能しない)
ENTESB-7936	Cannot deploy Fuse on EAP camel-mail quickstart within DevStudio IDE (DevStudio IDE 内で EAP camel-mail クイックスタートに Fuse をデプロイできない)
ENTESB-10350	camel-yammer - olderThan and newerThan endpoint options are not working for high message number (camel-yammer - olderThan および newerThan エンドポイントが大きいメッセージ番号で機能しない)
ENTESB-10593	No way to prevent java mail "expected resource not found" warnings from camel-mail component (camel-mail コンポーネントから java メールの expected resource not found 警告が発生しないようにする方法がない)
ENTESB-10798	[Hawtio] Direct url gives an access to Hawtio without authentication (認証がなくても URL で直接 Hawtio にアクセスできる)
ENTESB-10724	No Publish button for Data Virtualization (データ仮想化の Publish ボタンがない)
ENTESB-10832	Wrong version of Spring Boot in fuse-sb2 pom (fuse-sb2 pom での正しくないバージョンの Spring Boot)
ENTESB-10600	[Hawtio Karaf 6.3] Type Converters page not showing (Type Converters ページが表示されない)
ENTESB-10844	"SQL query page - generates SELECT * query (SQL クエリページ - SELECT * クエリを生成)
ENTESB-10445	Incorrect label - Generate Fuse 7.1 Camel Project for Minishift installations (誤ったラベル - Minishift インストールの Fuse 7.1 Camel Project の生成)

問題	説明
ENTESB-10586	fuse-karaf-7.2.0.fuse-720035-redhat-00001.zip does not contain org.ops4j.pax.jdbc/pax-jdbc-pool-dbc2/1.3.0 artifact by default (デフォルトで fuse-karaf-7.2.0.fuse-720035-redhat-00001.zip に org.ops4j.pax.jdbc/pax-jdbc-pool-dbc2/1.3.0 アーティファクトが含まれない)
ENTESB-9996	[Fuse Online] schema field is ignored in Database Connection (データベース接続でスキーマフィールドが無視される)
ENTESB-10400	Performance regression in camel-cbr-xpath integration example on EAP (EAP の camel-cbr-xpath インテグレーション例のパフォーマンス不具合)
ENTESB-10876	SQL Client page - enable horizontal scrolling on result table display (SQL Client ページ - 結果テーブルの表示で水平スクロールを有効化)
ENTESB-10362	multiple class javax/activation/DataHandler from different bundles (異なるバンドルから複数のクラス javax/activation/DataHandler)
ENTESB-10368	camel-linkedin: accessToken が設定された場合
ENTESB-10845	ViewEditor issue - changing view name in the DDL does not affect view (ViewEditor の問題 - DDL のビュー名を変更してもビューに影響しない)
ENTESB-10417	Memory leak in JMX/Camel Attributes page (JMX/Camel Attributes ページのメモリーリーク)
ENTESB-9484	[camel-validator] Non valid exchange ends in pending queue (有効でない交換が保留キューに置かれる)
ENTESB-10436	CXF BOM/EAP container version mismatch (CXF BOM/EAP コンテナバージョンの不一致)
ENTESB-9972	Camel Bindy Tab delimited - Handling Blank Values (Camel Bindy タブの区切り - 空白値の処理方法)
ENTESB-10881	Cannot enable JDBC and PG transports (JDBC および PG トランスポートを有効にできない)
ENTESB-10929	Route Permission issue while deploying the Virtualization (仮想化のデプロイ中にルーティング許可の問題)
ENTESB-10873	SB2 - spring-boot-camel-rest-sql: Table 'sampledb.orders' doesn't exist (SB2 - spring-boot-camel-rest-sql: テーブルの 'sampledb.orders' が存在しない)
ENTESB-10836	SB2 - spring-boot-camel-config: NoSuchMethodError

問題	説明
ENTESB-10988	eap-cxf-jax[w r]s, eap-jpa quickstart: NoSuchMethodError (eap-cxf-jax[w r]s、 eap-jpa クイックスタート: NoSuchMethodError)
ENTESB-10913	[Hawtio] CSS doesn't work on Login page in Mozilla Firefox (CSS が Mozilla Firefox の Login ページで動作しない)
ENTESB-10870	Upgrade org.apache.logging.log4j to 2.9.0 (org.apache.logging.log4j を 2.9.0 にアップグレード)
ENTESB-10820	Concurrent Modification Exception thrown by camel cxf (camel cxf によって出力される同時変更例外)
ENTESB-10825	SB2 quickstarts - missing component version (SB2 クイックスタート - コンポーネントバージョンがない)
ENTESB-10878	fuse-apicurito.yaml doesnt work with Openshift 4.1 (fuse-apicurito.yaml が Openshift 4.1 と動作しない)
ENTESB-10714	Backport CAMEL-12785 (CAMEL-12785 のバックポート)
ENTESB-10921	[Apicurito] No logos and pictures in UI of Apicurito (Apicurito の UI にロゴと写真がない)
ENTESB-10813	Fabric8 quickstart spring-boot-camel-infinispan does not work locally (Fabric8 クイックスタートの spring-boot-camel-infinispan がローカルで動作しない)
ENTESB-10252	[FIS]no_proxy in jvm argument not honoured in FIS Image (jvm 引数の [FIS]no_proxy が IS イメージで認識されない)
ENTESB-10399	Response truncated from camel-rest-dsl application with undertow as underlying web-container. (undertow を基盤の Web コンテナとする場合に camel-rest-dsl アプリケーションの応答が省略される)
ENTESB-10860	quickstarts from application-templates refers to old BOM version (application-templates からのクイックスタートが古い BOM バージョンを参照する)
ENTESB-10920	"CVE: vim update RHTSA: 43265 Important due July 27 (CVE: vim 更新 RHTSA: 43265 重要期限 7 月 27 日)
ENTESB-10710	Fabric8 quickstart spring-boot-camel-amq does not work correctly (probably missing configuration) (Fabric8 クイックスタートの spring-boot-camel-amq が適切に動作しない (設定が不足している可能性))
ENTESB-10599	Exception tag is missing when Camel Java DSL is converted into XML using Hawtio. (Hawtio を使用して Camel Java DSL を XML に変換すると例外タグがない)

問題	説明
ENTESB-10869	Upgrade Xalan transitive dependency to 2.7.2 (Xalan の推移的な依存関係を 2.7.2 にアップグレード)
ENTESB-10916	Security Context not being propagated in OData with Keycloak (Keycloak を使用して OData でセキュリティーコンテキストが伝播されない)
ENTESB-10990	Save Multiple Tables Selected from View Wizard (View ウィザードから選択された複数のテーブルの保存)
ENTESB-10989	Remove Extraneous Alert from DV View Creation Wizard (DV View Creation ウィザードから外部アラートを削除)
ENTESB-10793	Remove Fabric8 quickstart spring-boot-camel-teiid from 7.4 release (Fabric8 クイックスタートの spring-boot-camel-teiid を 7.4 リリースから削除)
ENTESB-10926	Old UI for the 7.4 CR1 Fuse Console and EAP quickstart (7.4 CR1 Fuse Console および EAP クイックスタートの古い UI)
ENTESB-11029	[Apicurito] apicurito operator: failed to start container (apicurito オペレーター: コンテナを開始できない)
ENTESB-11116	"CVE: vim update RHSA: 43265 Important due July 27 (CVE: vim 更新 RHSA: 43265 重要期限 7 月 27 日)
ENTESB-10872	SB2 - Problems in BOM (SB2 - BOM の問題)
ENTESB-10510	Wrong versions or missing entries for artifacts from extras[ABC] in licenses.xml (licenses.xml の extras[ABC] からのアーティファクトでバージョンが間違っているまたはエントリーがない)
ENTESB-10652	Camel-twitter fixes (Camel-twitter の修正)
ENTESB-10884	"syndesis aligned to camel-k-runtime 0.3.3 (amel-k-runtime 0.3.3 と適合する Syndesis)
ENTESB-10348	Backport CAMEL-12880 (CAMEL-12880 のバックポート)
ENTESB-10485	Failing CXF tests on SpringBoot and AIX72 (SpringBoot および AIX72 での CSF テストに失敗)
ENTESB-10486	Failing CXF tests on AIX using Karaf runtime (Karaf ランタイムを使用した AIX での CXF テストに失敗)
ENTESB-10618	"CXFRS header ""CamelDestinationOverrideUrl"" ignored after changing it twice" (2 回変更すると CXFRS ヘッダー ""CamelDestinationOverrideUrl"" が無視される)

問題	説明
ENTESB-10524	NoSuchMethodError: CamelCxfClientImpl.reloadResponseContext(Map)
ENTESB-10927	fuse-java-openshift and fuse-karaf-openshift can't be deployed on Openshift v3.11 (fuse-java-openshift および fuse-karaf-openshift を Openshift v3.11 にデプロイできない)
ENTESB-10571	wildfly-camel: license-maven-plugin ignores proxies set in settings.xml (wildfly-camel: license-maven-plugin が settings.xml のプロキシ設定を無視する)
ENTESB-10643	Disable HTTP TRACE method on CXF embedded Undertow transport (CXF 組み込み Undertow トランスポートで HTTP TRACE メソッドを無効化)
ENTESB-10492	EAP: Missing fuse-patch entries in licenses.xml (EAP: licenses.xml に fuse-patch エントリーがない)
ENTESB-11058	[CR1] Old atlasmap in Fuse online 7.4 CR1 (CR1) Fuse Online 7.4 CR1 の古い atlasmap)
ENTESB-10002	EAP: licenses-fuse/licenses.xml is out of sync with jar files (EAP: licenses-fuse/licenses.xml が jar ファイルと同期していない)
ENTESB-11124	SB2 BOM contains unproductized version of kafka clients (SB2 BOM に非製品化バージョンの kafka クライアントが含まれる)
ENTESB-11042	[7.4 CR1] komodo does not start (komodo が起動しない)
ENTESB-10985	spring-boot-camel-infinispan is missing readiness/liveness probes (spring-boot-camel-infinispan に eadiness/liveness プロブがない)
ENTESB-10808	"OCP 4.1 - prometheus-operator: Deployment in version ""v1beta2"" cannot be handled as a Deployment" (OCP 4.1 - prometheus-operator: デプロイメントバージョン v1beta2 をデプロイメントとして処理できない)
ENTESB-11061	[Fuse Console Operator] fuse-console-operator image contains wrong image stream for Hawtio (fuse-console-operator イメージに Hawtio の誤ったイメージストリームが含まれる)
ENTESB-11080	eap image has wrong version in docker labels (EAP イメージに正しくないバージョンの docker ラベルがある)
ENTESB-11064	[camel-k] kamel install --repository option is not working for plugins (kamel install --repository オプションがプラグインで動作しない)
ENTESB-11110	Step missing when building fuse online operator (Fuse Online オペレーターの構築する場合のステップが抜けている)
ENTESB-11040	Version of cxf-rt-transport-http-undertow is missing in spring boot 2 BOM (spring boot 2 BOM に cxf-rt-transport-http-undertow のバージョンがない)

問題	説明
ENTESB-11176	Backspace does not work when accessing the karaf shell of the fuse container running on windows via ssh (Windows で実行している Fuse コンテナの karaf シェルに ssh でアクセスする場合にバックスペースが機能しない)
ENTESB-11168	wrong version of FMP is pulled with BOM (BOM で誤ったバージョンの FMP がプルされる)